内部評価者(アセッサー)用

期首に仮評価した被評価者のレベル感を、 以下から選択してチェックして下さい。

- レベル1
- レベル2①
- レベル2②
- レベル3
- レベル4

ーチェック項目の評価基準ー

A :できる

B:できる場合とできない場合があり、指導を要する(日常的にやっていないが、やらせればできる場合を含む)

C:できない -:やっていない

1. 入浴介助 利 用 者 ID (A):

No	小項目	チェック項目	小項目評価	チュ A	ェックエ B	項目評価 C	5 -	レベル 評価方法 - 感	チェック日	所要時間	評価の参考とした 記録や被評価者の 対応等	改善点・疑問点 などについて ご記入ください。	備考
1	入浴	前の確認ができる											
		バイタルサインの測定や利用者へのヒアリングによる体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について確認したか。		0	0	0	0	1 期中から期末に1回現認	月	180 分			
		② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。		0	0	0	0	ッポート カード					
2	起居の	D介助ができる											
		① 起きる前に、利用者に体調確認をしたか。		0	0	0	0		月	分			
		② 全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こしたか。		0	0	0	0	1					
		一部介助が必要な利用者について、足を曲げてもらう、柵をつかんでもらう等利用者の残存機能を活かしなが 6起居の支援を行ったか。	-	0	0	0	0	~ 期中から期末に1回現認 3					
		④ 利用者を側臥位にし、テコの原理を活用しながら、無理のない起居の介助を行ったか。		0	0	0	0						
3	一部	介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる						- '					
		① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキ がかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。		0	0	0	0		月日	分			○全介助:その行為の全てに介助が 行われている(必要な)場合 一部介助:部分的に介助が行われ ている(必要な)場合
		② 利用者の健側かつ、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く位置に車いすを配置したか(ベッドの配置等で困難な場合は、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く範囲に配置したか)。		0	0	0	0						○スライディングボード・スライディングシート等の福祉用具について、施 ・事業所においてあらかじめ定めら
		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。		0	0	0 0	Э	1					れた手順・手法がない場合、介護福祉士の養成テキスト等における一般
		④ 利用者に健側の手でベッドから遠い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらい、患側を保護しながら 前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。		0	0	0 (Э	~ 期中から期末に1回現認 3					的な手順・方法に沿って移乗しているかどうかで評価。
		利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。		0	0	0	0						
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗することができたか。		0	0	0 (0						
		⑦ スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方 法に沿って、安全に移乗することができたか。		0	0	0 (0						
4	全介目	かが必要な利用者の車いすへの移乗ができる											
		① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにプレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。		0	0	0	0		月日	分 分			○網掛けの項目は一部介助の場合と 同様の項目。 ○移乗用リフト等の福祉用具につい
		② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15~45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。		0	0	0 (0						て、施設・事業所においてあらかじめ 定められた手順・手法がない場合、 介護福祉士の養成テキスト等におけ
		③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。		0	0	0	0	1					る一般的な手順・方法に沿って移乗 しているかどうかで評価。
		④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。		0	0	0	0	~ 期中から期末に1回現認 3					
		⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。		0	0	0	0						
		⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、車いすに深く座らせることができたか。		0	0	0	0						
		⑦ 移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。		0	0	0	0						

小 No 項	1		チェッ	ック頃	目評価	l I L		チェックE	所要時	評価の参考とした	改善点・疑問点	
No 項 目	チェック項 目	頃目 評価			С -	J	ベ ル 評価方法 惑	月	В	デーログラグラン 計画の多名とした 一 記録や被評価者の 対応等	などについて ご記入ください。	備 考
5 車に	すの移動ができる	11111			<u> </u>							
	① 事故防止の観点から、利用者の足がフットレストに、健側の手がアームレスト(アームサポート)に乗っているか、 患側の手が膝の上に乗っているかを確認し、安全を確保したか。		0	0	0 0	1	1 期中から期末に1回現認	月	Ħ	分		
	② 段差や道幅、往来等を考慮しながら、安全な進路を選択して移動したか。	0 0	0	0 0	1 :	3						
6 杖步	そう そ						-					
	① 利用者の歩く方向を確認しながら、段差等の安全に対するリスクを考慮し、予め利用者へ声かけをしたか。		0	0	0 0			月	H	分		
	② 利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ったか。		0 0	0	0 0	1	1 対中から期末に1回現認					
	③ 利用者に片まひがある場合、二動作歩行や三動作歩行の声かけを行えたか。		0 0	0	0 0	1 :	3					
	④ 急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行ったか。		0 0	0	0 0	,						
7 一音	B介助が必要な利用者の衣服の着脱ができる	П				İ						
	① 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらったか。		0	0	0 0			月	日	分		
	② スクリーン等を使い、プライバシーに配慮したか。		0 0	0	0 0							
	③ 前開き衣類の脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。		0 0	0	0 0		1					
	④ 前開き衣類の着衣の際に、患側から健側の順番で行ったか。		0 0	0	0 0		期中から期末に1回現認					
	⑤ ③④の場合、ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。		0 0	0	0 0							
	⑥ しわやたるみがないか確認したか。		0 0	0	0 0							
8 全介	・ 助が必要な利用者の衣服の着脱ができる											
	① 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらったか。		0 0	0 (0 0			月	月 日 分	}		
	② スクリーン等を使い、プライバシーに配慮したか。		0 0	0	0 0		1					○網掛けの項目は一部介助の
	③ かぶり上衣の脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。		0 0	0	0 0		〜 期中から期末に1回現認					場合と同様の項目。
	④ かぶり上衣の着衣の際に、患側から健側の順番で行ったか。		0 0	0	0 0		3					
	⑤ しわやたるみがないか確認したか。		0 0	0	0 0							
9 洗体	。 ができる(浴槽に入ることを含む。)											
	① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。		0 0	0	0 0			月	Ħ	分		
	② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、バランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。		0 (0	0 0	==			•	Ī		
	③ 利用者に片まひがある場合、浴槽から出る時は、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。		0 0	0	0 0		1 対中から期末に1回現認					
	簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。		0 0	0 (0 0							
	⑤ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。		0 0	0	0 0							

			ds											州不	評価票(内部評価シート)1
No	小項目	チェック項目	小項 目評			目評価 C -		ン く 評価方法	チェック	ク日日	所要時	間	評価の参考とした 記録や被評価者の 対応等	改善点・疑問点 などについて ご記入ください。	備考
10		介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる	価	^ '		<u> </u>	- 2		- Л	п		<i>7</i> 3			
10					_		4 F								○スライディングボード・スライディン
	-	① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、 フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。		0 0))	0 0			月	日		分			グシート等の福祉用具について、施 設・事業所においてあらかじめ定めら
		② 利用者の健側がベッド側となるよう、かつ、移乗する際に活用できる柵等が手の届く位置に車いすを配置したか(ベッドの配置等で困難な場合は、移乗の際に活用できる柵等が手の届く範囲に車いすを配置したか)。	(0 0		0 0									れた手順・手法がない場合は、介護 福祉士の養成テキスト等における一 般的な手順・方法に沿って移乗して いるかどうかで評価。
		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。		0 0	O	0 0									
		利用者に健側の手で柵等をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を ④ 行ったか。(柵を使用していない場合には、健側の手をベッドの健側の膝より遠い位置についてもらい、患側を 保護しながら立ち上がるよう、声かけ、介助を行ったか。)		0 0	0	0 0		1 ~ 期中から期末に1回現認 3							
	-	利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。		0 0))	0 0									
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、ベッドに座ることができたか。		0 0) (0 0									
		⑦ スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方 法に沿って、安全に移乗することができたか。		0 0	5	0 0									
11		助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる													
		① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。		0 0)	0 0			月	H		分			○網掛けの項目は一部介助の場合と 同様の項目。
		② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15~45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。		0 0) (0 0									○移乗用リフト等の福祉用具について、施設・事業所においてあらかじめ 定められた手順・手法がない場合、
		③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整し、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。		0 0	Э	0 0)	1							介護福祉士の養成テキスト等における一般的な手順・方法に沿って移乗
		④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。		0 0	o	0 0	-	~ 期中から期末に1回現認 3							しているかどうかで評価。
	-	⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。	-	0 0))	0 0									
		⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、ベッドに座らせることができたか。		0 0	2	0 0									
		移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。		0 0	5	0 0									
12	清拭	ができる						•							
		① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリングによって体調確認を行い、清拭の可否について確認したか。		0 0	Э (0 0			月	日		分			
		② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた清拭方法が選択できたか。		0 0	0	0 0		1 期中から期末に1回現認							
		③ スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。	(0 0	D	0 0		効甲が9期末に1回現認 3							
		④ 末梢から中枢の順番で洗うなど、適切な手順でできたか。		0 0	0	0 0									

2. 食事介助 利 用 者 ID (A):

No	小項	チェック項目	小項目	チェ	ック項	目評価		レベベル要価方法	チェック日 所要時間	評価の参考とした 記録や被評価者の	改善点・疑問点 などについて	備者
	Ê	, = , , , =	評価	А	В	С -		感	月 日 分	対応等	などについて ご記入ください。	, iii
1	食事	前の準備を行うことができる							r			
		① 声を掛けたり肩を叩いたりするなどして、利用者の覚醒状態を確認したか。		0 (0	0 0			月 日 分			
		② 嚥下障害のある利用者の食事にとろみをつけたか。		0	0	0 0		1				
		③ 禁忌食の確認をしたか。		0	0	0 0	1	3				
	•	④ 飲み込むことができる食べ物の形態を確認したか。	-	0	0	0 0						
2	座位	で食事をする際の姿勢の介助ができる										
		① 体幹の傾きはないか、足底が床についているか、椅子に深く腰を掛けお尻が安定して座っているかなど座位の安定を確認したか。		0	0	0 0		1 ~ 期中から期末に1回現認	月 日 分			
	•	② 顎が引けている状態で食事が取れるようにしたか。		0	0	0 0		3				
3	寝た	ままで食事をする際の姿勢の介助ができる										
		① ベッドをギャッチアップし、食べやすい座位の位置や安定(体幹の傾きはないか)を確認したか。		0	0	0 0		1 ~ 期中から期末に1回現認	月 日 分			
		② 利用者の頭部が前傾姿勢になるように枕やクッションで調整したか。		0	0	0 0		3				
4	食事	介助ができる										
		① 食事の献立や中身を利用者に説明する等食欲がわくように声かけを行ったか。		0	0	0 0			月 日 分			
		② 多すぎる量を一度に口に入れなかったか。		0	0	0 0						
		③ 利用者と同じ目線の高さで介助する等、利用者の飲み込みが確認できるような姿勢で介助を行ったか。		0	0	0 0	.	1 ペー 期中から期末に1回現認				
		④ 利用者がしっかり咀嚼して飲み込んだことを確認してから次の食事を口に運んだか。		0	0	0 0		3				
	•	⑤ 自力での摂食を促し、必要時に介助を行ったか。	-	0	0	0 0						
	•	⑥ 利用者の食べたいものを聞きながら介助したか。		0	0	0 0						
5	口腔	ケアができる										
		① 出来る利用者には、義歯の着脱、自分で磨ける部分のブラッシング、その後のうがいを促したか。		0	0	0 0			月 日 分			
		② 義歯の着脱の際、利用者に着脱を理解してもらい、口を大きく開けて口腔内に傷をつけないよう配慮しながら、 無理なく行ったか。		0	0	0 0		1 ~ 3 期中から期末に1回現認				
		③ スポンジブラシやガーゼ等を用いた清拭について、速やかに行い、利用者に不快感を与えなかったか。		0	0	0 0						
		④ 歯磨きや清拭の後、口腔内を確認し、磨き残し、歯茎の腫れ、出血等がないか確認したか。		0	0	0 0						

3. 排泄介助 利 用 者 ID (A):

No IJ	、 i ・ ・ ・	小項目評価		ック項 B	i目評価 C -		レベル 評価方法 ― 感	チェック日	所要時間分	評価の参考とした 記録や被評価者の 対応等	改善点・疑問点 などについて ご記入ください。	備考
1 排	泄の準備を行うことができる	100										
	① 排泄の間隔を確認したか。		0	0	0 0	,	期中から期末に1回現認 (必要に応じ記録確認)	月 日	分			
	② 排泄介助に当たり、介助内容を伝え、利用者の同意を得たか。		0	0	0 0)	~					
	③ 利用者のADLを把握し、排泄する上で、できる部分は利用者にやってもらうようにしたか。	-	0	0	0 0)	3 期中から期末に1回現認					
2 h		П										
	① 利用者が健側の手足に重心をかけ立ちあがり、身体の向きを変える際、腰を支えたか。		0	0	0 0	,		月 日	分			
	② ズボン、下着を下ろす了承を得て、支えながら下ろしたか。		0	0	0 0)	~ 期中から期末に1回現認					
	③ トイレ(ポータブルトイレ)で、利用者の足底がついているか、前屈姿勢がとれているか等座位の安定を確認したか。		0	0	0 0)	3					
3 h												
	① トイレ(ポータブルトイレ)での排泄の際、カーテンやスクリーンを使用したり、排泄時にはその場を離れ、排泄終 了時には教えてくださいと説明する等してプライバシーに配慮したか。		0	0	0 0)		月 日	分			
	② 排泄後、利用者にトイレットペーパー等で拭いてもらい、拭き残しがあれば清拭を行うとともに、利用者の手洗い ② を見守る等により清潔保持をしたか。		0	0	0 0)	期中から期末に1回現認 1 ~					
	③ 失禁かトイレでの排泄かや、排泄物の量や性状について記録をしたか。		0	0	0 0	-	3 評価期間中に記録確認					
	④ 事業所・施設内の手順に沿って排泄物を処理したか。		0	0	0 0)	#8 ch A, 8 #8 + 2 x 1 (512F88)					
	⑤ 排泄後、利用者の体調確認を行ったか。		0	0	0 0)	期中から期末に1回現認					
4 体	位変換ができる	П	<u> </u>									
	① 利用者の膝を立て、テコの原理を活用しながら、体位変換したか。		0	0	0 0			月 日	分			
	② 顔、腕、足の位置を確認し、腕の巻き込みなどに注意しながら、ベッド柵などにぶつけることなく、利用者に痛み や傷を与えないように体位変換したか。		0	0	0 0							
	(3) 横向きになることができる人には自力で横になってもらったり、膝を自分で曲げられる人には自分で曲げてもらうなど、利用者の残存機能を活かしながら体位変換したか。		0	0	0 0		~ 期中から期末に1回現認 3					
	④ ベッドの下の方にずり落ちた場合には姿勢を正すなど、身体に摩擦を与えないように体位変換したか。		0	0	0 0)						
	⑤ 体位変換後、クッションやタオルなどを使用し、安楽な体位保持への介助を行ったか。		0	0	0 0)						
5 to	むつ交換を行うことができる	П										
	① 利用者に尿意、便意の有無、排泄した感じの有無を聞き、おむつ・パッドを換えることなどの介助内容を伝え、 承諾を得ているか。		0	0	0 0			月 日	分			
	② おむつ・パッド交換の際、カーテンやスクリーンを使用する等してプライバシーに配慮したか。		0	0	0 0		1 期中から期末に1回現認					
	③ おむつ・パッドを尿漏れしない位置に装着したか。		0	0	0 0	O 3	~ >>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>					
	④ おむつ・パッドを装着後、衣服、寝具等にしわがないように整えたか。		0	0	0 0		3					
	⑤ 排泄時刻、排泄物の量や性状、陰臀部の皮膚の異常について記録をしたか。		0	0	0 0		評価期間中に記録確認					

1.入浴介助 利 用 者 ID (B):

Ne	小項目	チェック項 目	小項目評価		/ク項目 B C			レベルア・評価方法	チェック日 月 日	所要時間分	評価の参考とした 記録や被評価者の 対応等	改善点・疑問点 などについて ご記入ください。	備考
1	入		IШ				Ħ						
		① バイタルサインの測定や利用者へのヒアリングによる体調確認、意向確認を行い、入浴の可否について確認したか。		0 (o (0	ll	1 期中から期末に1回現認	月 日	分			
		② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた入浴方法が選択できたか。		0 (o c	0	-	〜 期中から期末に1回現認 (必要に応じて被評価者へ のヒアリング)					
2	起昂	の介助ができる					П						
		① 起きる前に、利用者に体調確認をしたか。		0 (o c	0			月 日	分			
		② 全介助が必要な利用者の上体がカーブを描くように起こしたか。		0	0 0	0	=	1					
		一部介助が必要な利用者について、足を曲げてもらう、柵をつかんでもらう等利用者の残存機能を活かしながら起居の支援を行ったか。		0	0 0	0		~ 期中から期末に1回現認 3					
		④ 利用者を側臥位にし、テコの原理を活用しながら、無理のない起居の介助を行ったか。		0	0 0	0							
3	-1	・ B介助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる					П	•					
		① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やプレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。	-	0	0 0	0	-		月 日	分			○全介助:その行為の全てに介助が 行われている(必要な)場合 一部介助:部分的に介助が行われ ている(必要な)場合
		② 利用者の健側かつ、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く位置に車いすを配置したか(ベッドの配置等で困難な場合は、利用者の手がアームレスト(アームサポート)に届く範囲に配置したか)。		0	0 0	0	=						○スライディングボード・スライディングシート等の福祉用具について、施設・事業所においてあらかじめ定められた手順・手法がない場合、介護福
		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。		0	0 0	0		1					祉士の養成テキスト等における一般
		④ 利用者に健側の手でベッドから違い方のアームレスト(アームサポート)をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を行ったか。		0 (o c	0		~ 期中から期末に1回現認 3					的な手順・方法に沿って移乗してい るかどうかで評価。
		利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。		0 0	o c	0							
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、車いすに移乗することができたか。		0 (o c	0							
		② スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。		0	o c	0							
4	全が	I 助が必要な利用者の車いすへの移乗ができる					Ħ						
		① 介助を始める前に、車いすのフットレスト(フットサポート)やブレーキに動作不良がないか、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているか、タイヤの空気が十分かを予め確認したか。		0 0	o (0			月 日	分			○網掛けの項目は一部介助の場合と 同様の項目。○移乗用リフト等の福祉用具につい
		② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15~45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。		0 0) c	0							て、施設・事業所においてあらかじめ 定められた手順・手法がない場合、 介護福祉士の養成テキスト等におけ
		③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整するとともに、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。		0		0		1					る一般的な手順・方法に沿って移乗 しているかどうかで評価。
		④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。		0 0	D	0		~ 期中から期末に1回現認 3					
		⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。		0 (o 0	0	Ш						
		⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、車いすに深く座らせることができたか。		0 (o 0	0							
		⑦ 移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。		0 () c	0							

1		ΔN		小	小		16	V	チェック日	所要	時間	評価の参考とした	改善点・疑問点	計画宗(内印計画ノード)		
	No		チェック項 目			-			ベ ル 評価方法 = 感		В	分	記録や被評価者の	なぎについて ご記入ください。	備 考	
	5	車い	すの移動ができる	im.				1								
■ 技術性の介閣ができる ① 利用者に方式が終わる場合、関連が分析で上部が大かったが、			① 事故防止の観点から、利用者の足がフットレストに、健側の手がアームレスト(アームサポート)に乗っているか、 患側の手が膝の上に乗っているかを確認し、安全を確保したか。		0	0	0 0		1 ~ 期中から期末に1回現認	月	H	分				
□ 利用者の例の方面を特別しなが、多差等の変差に対するリスクを考慮し、子が利用者へ声がするしたか。 □ 利用者に対するがみの場合に、国体が行き、通常を行うかからを有えて立ったか。 □ 利用者に対するがみの場合に、国体が行き、通常を行ったか。 □ の			② 段差や道幅、往来等を考慮しながら、安全な進路を選択して移動したか。		0	0	0 0		3							
② 2 利用者の社会様子子反対制のやや動物を入むやかか。 ③ 3 利用者に作まのがある場合、「場所後行の下別作者行のためため。 ③ 4 単計は下 利用者の体 2 単語を持つため。 ② 5 単語は下 利用者の体 2 単語を持つため。 ③ 6 単語は下 利用者の体 2 単語を持つため。 ③ 7 本の数が必要な利用者の全域の書間ができる。 ③ 体験が大変には、利用者の持ちから神経を強いでもつたか。 ③ 8 がありまない認に、規則も場別の間面で行ったか。 ④ 6 前端を大数の表なの認に、規則も場別の間面で行ったか。 ④ 6 上ややたるみがない 中極的したが。 ④ 1 体験が大変を対象に変数ができる ④ 化物が必要と利用者の全域のできるとあば自分で行うため。 ④ 2 本のかしまでの表での認に、規則がありから呼吸を変数してもったか。 ④ 2 本のかしまでの表での認に、規則がありから呼吸を変数してもったか。 ④ 2 本のも上表の表での記しまがら、利用者がありから呼吸を変数してもったか。 ⑤ 3 本のも上来の表での認に、機能がも退制の事態で行ったか。 ⑤ 3 かより上来の表での認に、機能がも退制の事態で行ったか。 ⑤ 3 かより上来の表での認に、機能がも退制の事態で行ったか。 ⑥ 1 かより上来の表がない。特徴によるに、 ⑥ 1 かまの上来の経過であい。 多部は機能のそで表ってもったか。 ⑥ 1 かまの上来の経過であい。 多部は機能のそで表ってもったか。 ⑥ 1 かまの上来の経過であい。 多部は地域のそで表ってもったか。 ⑥ 1 対象がより表の情報と入れれている。 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	6	杖歩	行の介助ができる	П				١t								
① 利用者に対す込める場合、二動作学行や三動作型作の声が対を行文たか。			① 利用者の歩く方向を確認しながら、段差等の安全に対するリスクを考慮し、予め利用者へ声かけをしたか。		0	0	0 0			月	B	分				
② 利用者に片支のがある場合、三動作等でや三動作物を行ったか。 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			② 利用者の杖を持つ手と反対側のやや斜め後ろに立ったか。		0	0	0 0	-	1							
一番が動から変と利用者の表面の素拠ができる			③ 利用者に片まひがある場合、二動作歩行や三動作歩行の声かけを行えたか。	-	0	0	0 0		3							
① 体際や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋散を強んでもかったか。 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			④ 急がせず、利用者のペースに合った介助・誘導を行ったか。		0	0	0 0									
② スタリーン等を使い、プライバシーに配慮したか。 ③ 前嗣さな類の者をの際に、健康から意味の順番で行ったか。 ④ 前副さな類の者をの際に、と願から機関の順番で行ったか。 ⑤ ②②の場合、ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。 ⑥ しさやたるみがない。小確認したか。 ⑥ しさやたるみがない。小確認したか。 ⑥ かぶり上なの最大の対象が会しながら、利用者の好みの時限を描んでもらったか。 ⑥ かぶり上なの者なの際に、健康から参照の側番で行ったか。 ⑥ かぶり上なの者なの際に、健康から参照の側番で行ったか。 ⑥ しさやたるみがない。小確認したか。 ⑥ かぶり上なの者なの際に、健康から参照の順番で行ったか。 ⑥ しさやたるみがない。小確認したか。 ⑥ かぶり上なの者なの際に、健康から参照の側番で行ったか。 ⑥ しきやたるみがない。小確認したか。 ⑥ しきやたるみがない。小確認したか。 ⑥ しきやたるみがない。小確認したか。 ⑥ はから作品の制度を使い、プライジレーに配慮したか。 ⑥ はから作品の制度を使い、原語は機関の子で売ってもらったか。 ⑥ は、対象がらも係の開きで使い、原語は機関の子で売ってもらったか。 ⑥ 利用者に片まのがある場合、指性に入る時は、パランスを気をつけながら、介護者が片手を側によわし、鬼足をもう・カーカーサでか助して、健康の定ともら下さたか。 ⑥ 利用者に片まのがある場合、解性に入る時は、パランスを気をつけながら、介護者が片手を側によわし、鬼足をもう・カーカーサでが助して、健康の定ともら下さたか。 ⑥ 側側がに回し、健康の定とも出てい来につけ、次に透明の足を付すことができたか。 ⑥ 順島リアト等、入路機器を削いて入路した場合、利用者の身体の位置を確認し、千が挟まれる等の事故に注意 ⑥ ⑥ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	7	一部	介助が必要な利用者の衣服の着脱ができる	П				۱t								
③ 前開き玄坂の脱衣の際に、健郷から患側の損害で行ったか。 ③ ③②の場合、ボタンの取り外上等、自力でできるとろは自分で行うよう利用者に促したか。 ④ しわやたるみがないが確認したか。 ④ とか動必要要利用者の玄風の気配ができる ① 体療や気候に、変優から患傷の資格ができる ② スタリーン等を使い、ブライバシーに配慮したか。 ④ かぶり上衣の鬼の所に、健腹から患傷の損害で行ったか。 ④ かぶり上衣の鬼の際に、健腹がも患傷の損害で行ったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ④ かぶり上衣の鬼衣の際に、健腹がも患傷の損害で行ったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ④ かぶり上なの鬼衣の際に、健腹がも患傷の損害で行ったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ④ かぶり上なの鬼衣の際に、健腹がも患傷の損害で行ったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ④ かぶり上なの鬼衣の際に、健腹がも患傷の事で洗ってもらったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ④ 水本ができる(溶離に入ることを含む、) ① 末体がら中枢の順害で洗い、陰器は健腐の手で洗ってもらったか。 ④ 利用者に対しがある場合、治療に入る時は、パランスを気をつけながら、介護者が仕事を概にまわし、思見をもしもつかり即に同し、健康の足もらようなできたか。 ④ ルっかり即に同し、健康の足もられて、次に患側の足を出てするいた。からである。 ⑥ 過かとりな、発音が自然をは、パランスを気をつけながら、介護者が仕事をしたがらずか多手でかりいて、健康の足もらようないき、はからできたか。 ⑥ 山っかり即に同し、健康の足と出て球面につけ、次に患側の足を出てきたか。 ⑥ 電易フト等、入容機器を用いて入帝した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意			① 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらったか。		0	0	0 0	1		月	H	分				
① 前間きた類の書名の際に、患働から後側の順番で行ったか。 ② ③ ③の場合、非タンの取り外に等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に使したか。 ② 上わやたるみがないか壊認したか。 ② スクリーン等を使い、プライバシーに直感したか。 ② カッシー大変を使い、プライジーに直感したか。 ② かぶり上衣の最衣の際に、健園から患働の順番で行ったか。 ② かぶり上衣の表衣の喉に、健園から患働の順番で行ったか。 ② しわやたるみがないか嫌認したか。 ③ かぶり上衣の表衣の際に、健園が患機の順番で行ったか。 ② しわやたるみがないか嫌認したか。 ③ 水体ができる (浴槽に入ることを含む。) ② 末権がら中枢の順番できい、診断は韓側の再ででつたか。 ② 利用者に下ましかふる場合、診断に入ら続は、パランスを戻るづけながら、介護者が片手を側によわし、患足を② もう一方の手でか引して、健側の足から入留できたか。 ③ 利用者に下ましかふる場合、診断に見いしたから、分離をおけ手を側によわし、患足を② しっかり間に回し、健側の足から入留できたか。 ④ 利用者に下ましかふる場合、診断に入る時は、パランスを廃さないが、介護者が片手を側によわし、患足を② しっかり間に回し、健側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疼痛につけ、大きに急側の足を出して疾痛につけ、大きに急側の足を出して疾痛につけ、大きに急側の足を出して疾痛につけ、大きに急側の足を出して疾病につけ、大きに急側の足を出して疾病につけ、大きに丸のの事故に注意② ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			② スクリーン等を使い、プライバシーに配慮したか。	-	0	0	0 0									
② 前陽含水類の客水の際に、患側から障側の順番で行ったか。 ③ ③③の場合、ボタンの彫り外に等。自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 ② スクリーン等を使い、ブライジーに配慮したが。利用者の好みの伴駆を進んでもらったか。 ② スクリーン等を使い、ブライジーに配慮したが。 ③ かぶり上衣の屋衣の際に、機能が必要側の順番で行ったか。 ③ かぶり上衣の屋衣の際に、機能が必要側の順番で行ったか。 ③ かぶり上衣の屋衣の際に、機能が必要側の順番で行ったか。 ③ しわやたるみがないか確認したか。 ③ しわやたるみがないか確認したか。 ③ しわやたるみがないか確認したか。 ③ しわやたるみがないか確認したか。 ② 利用者に片まりがある場合、溶槽に入ることを含む。) ① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部の足をがしてもらったか。 ② 利用者に片まりがある場合、溶槽から出る時は、パランスを描さないよう。ゆっくり立ち上がり、介護者が片手を順にまわし、患足を ② もう・カライで介がし、強制の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。 ③ 利用者に片まりがある場合、溶槽からよいないかに、発酵しる時は、パランスを描さないよう。ゆっくり立ち上がり、介護者が片手を ② ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			③ 前開き衣類の脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。	-	0	0	0 0		1							
② しかやたろかがいり、確認したか。 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			④ 前開き衣類の着衣の際に、患側から健側の順番で行ったか。	-	0	0	0 0		期中から期末に1回規認3							
8 全介助が必要な利用者の衣服の右視ができる ① 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらったか。 ② スクリーン 等を使い、プライバシーに配慮したか。 ③ かぶり上衣の慰衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。 ③ かぶり上衣の密衣の際に、態側から健側の順番で行ったか。 ③ しわやたるみがないか確認したか。 ② 大体ができる(浴槽に入ることを含む。) ② 未体ができる(浴槽に入ることを含む。) ② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、パランスを気をつけながら、介護者が片手を飼しまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。 ③ 利用者に片まひがある場合、浴槽の見から入浴できたか。 ④ 側角が上片まひがある場合、浴槽の見から入浴できたか。 ④ 御男かと海者に1回規器 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			⑤ ③④の場合、ボタンの取り外し等、自力でできるところは自分で行うよう利用者に促したか。	-	0	0	0 0									
① 体験や気候に配慮したがら、利用者の好みの洋展を選んでもらったか。 ② スクリーン等を使い、プライバンーに配慮したか。 ③ かぶり上衣の脱衣の際に、健働から健側の顕書で行ったか。 ③ かぶり上衣の着衣の際に、健働から健側の顕書で行ったか。 ③ しわやたろみがないか確認したか。 ③ 上わやたろみがないが確認したか。 ② 利用者に入る正とを含む。) ② 利用者に入る正とを含む。) ③ 利用者に上まひがある場合、浴槽に入るできたか。 ③ 利用者に片まじがある場合、浴槽から出る時は、バランスを気をつけながら、介護者が片手を開にまわし、単足を ④ もう一方の手で介助して、健側の足が出る人浴できたか。 ③ 利用者に片まじがある場合、浴槽から出る時は、バランスを働さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手を ⑤ しっがり帰に回し、健側の足を出して床面につけ、次に急側の及を出すことができたか。 ④ 簡易リアト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意 ⑥ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			⑥しわやたるみがないか確認したか。		0 (0	0 0									
② スクリーン等を使い、ブライバシーに配慮したか。 ③ かぶり上衣の脱衣の際に、建側から整側の順番で行ったか。 ④ かぶり上衣の着衣の際に、患側から整側の順番で行ったか。 ⑤ しわやたるみがないが確認したか。 9 洗体ができる(溶槽に入ることを含む。) ① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。 ② 利用者に片まりがある場合、治槽に入るにとは、バランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。 ③ 利用者に片まりがある場合、浴槽から出る時は、バランスを焼きないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。 ④ 節易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	8	全介	助が必要な利用者の衣服の着脱ができる	П				۱t								
② かぶり上衣の脱衣の際に、健側がら建側の順番で行ったか。 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			① 体調や気候に配慮しながら、利用者の好みの洋服を選んでもらったか。		0	0	0 0			月	月 日 夕	分	7			
③ かぶり上衣の脱衣の際に、健働から患側の順番で行ったか。			② スクリーン等を使い、プライバシーに配慮したか。		0	0	0 0		1						○網掛けの項目け一部介助の	
9 洗体ができる(浴槽に入ることを含む。) ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			③ かぶり上衣の脱衣の際に、健側から患側の順番で行ったか。		0	0	0 0		~ 期中から期末に1回現認							
9 洗体ができる(浴槽に入ることを含む。) ① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。 ② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、パランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。 ③ 利用者に片まひがある場合、浴槽から出る時は、パランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。 ④ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意			④ かぶり上衣の着衣の際に、患側から健側の順番で行ったか。	-	0	0	0 0		3							
① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。 ② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、バランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。 ③ 利用者に片まひがある場合、浴槽から出る時は、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。 ④ 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。			⑤しわやたるみがないか確認したか。	-	0	0	0 0									
② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、バランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足を 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	9	洗体	ができる(浴槽に入ることを含む。)	П				ĪĪ								
(3) 利用者に片まひがある場合、浴槽から出る時は、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。 (4) 簡易リフト等、入浴機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。			① 末梢から中枢の順番で洗い、陰部は健側の手で洗ってもらったか。		0	0	0 0			月	H	分				
□ しつかの胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に悪側の足を出すことができたか。 □			② 利用者に片まひがある場合、浴槽に入る時は、バランスを気をつけながら、介護者が片手を胴にまわし、患足をもう一方の手で介助して、健側の足から入浴できたか。		0	0	0 0									
			③ 利用者に片まひがある場合、浴槽から出る時は、バランスを崩さないよう、ゆっくり立ち上がり、介護者が片手をしっかり胴に回し、健側の足を出して床面につけ、次に患側の足を出すことができたか。	-	0	0	0 0		1 ~ 期中から期末に1回現認							
⑤ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。 O O O O O O O O O O O O O O O O O O O			④ 簡易リフト等、入谷機器を用いて入浴した場合、利用者の身体の位置を確認し、手が挟まれる等の事故に注意して、安全に入浴できたか。		0 1	0	0 0									
			⑤ 入浴後、体調の確認をし、十分な水分補給ができたか。		0	0	0 0	-								

							- -							評価票(内部評価シート)1
No	小項目	チェック項目	小項目評		_	目評価 C -	L /	, 計価方法	チェック日	В	所要時間	評価の参考とした 記録や被評価者の 対応等	改善点・疑問点 などについて ご記入ください。	備考
	_	A BLIGHT LINE A 19 A SECTION LINE	価	А	В	C -	2	*	Я	П	,	7370-3	C ady () Z C v s	
10		介助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる						T T				4		0-7/
	-	① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、 フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。		0 0	0	0 0			月	日	2	}		○スライディングボード・スライディングシート等の福祉用具について、施設・事業所においてあらかじめ定めら
		② 利用者の健側がベッド側となるよう、かつ、移乗する際に活用できる柵等が手の届く位置に車いすを配置したか (ベッドの配置等で困難な場合は、移乗の際に活用できる柵等が手の届く範囲に車いすを配置したか)。		0	0	0 0								れた手順・手法がない場合は、介護 福祉士の養成テキスト等における一 般的な手順・方法に沿って移乗して いるかどうかで評価。
		③ 利用者の患側に立ち、利用者の足底がきちんとついた状態で介助を行ったか。		0 (0	0 0								
		利用者に健側の手で柵等をつかんでもらい、患側を保護しながら前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけ、介助を ④ 行ったか。(柵を使用していない場合には、健側の手をベッドの健側の膝より遠い位置についてもらい、患側を 保護しながら立ち上がるよう、声かけ、介助を行ったか。)		0 (0	0 0	`	ý 期中から期末に1回現認						
	-	利用者の患側の膝折れが起こらないよう手で支える等、バランスが崩れないよう支え、立ち上がりを介助したか。		0 0	0	0 0								
		⑥ 利用者の健側の足を軸にして体を回転させて、ベッドに座ることができたか。		0 (0	0 0								
		⑦ スライディングボードやスライディングシート等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方 法に沿って、安全に移乗することができたか。		0 (0	0 0								
11 :	全介	助が必要な利用者のベッドへの移乗ができる												
		① 介助を始める前に、車いすにブレーキがかかっているか、フットレスト(フットサポート)から足が降りているか、フットレスト(フットサポート)が上がっているかを確認したか。		0	0	0 0			月	日	2)		○網掛けの項目は一部介助の場合と 同様の項目。
		② 利用者や介護者の体の大きさ等を勘案し、ベッドと車いすの角度が15~45度となる範囲で安全に移乗できる位置に車いすを配置したか。	-	0 0	0	0 0								○移乗用リフト等の福祉用具について、施設・事業所においてあらかじめ 定められた手順・手法がない場合、
		③ 移乗がしやすいよう、ベッドの高さを調整し、利用者の足底がついた状態で介助を行ったか。		0 0	0	0 0								介護福祉士の養成テキスト等における一般的な手順・方法に沿って移乗
		④ 利用者の体と密着させる、利用者の腰に手を回す、利用者に介護者の肩に手を回してもらう等、移乗がしやすい体勢をとったか。		0	0	0 0		期中から期末に1回現認						しているかどうかで評価。
		⑤ 利用者に前傾姿勢をとらせ、利用者の体をゆっくりと引き寄せながら立ち上がることができたか。	-	0 0	0	0 0								
		⑥ 利用者の体をゆっくりと回転させ、ベッドに座らせることができたか。		0 (0	0 0								
		移乗用リフト等の福祉用具を用いた移乗の場合、あらかじめ定められた手順・方法に沿って、安全に移乗することができたか。		0	0	0 0								
12	青拭:	ができる												
		① バイタルサインの測定、利用者へのヒアリングによって体調確認を行い、清拭の可否について確認したか。		0 (0	0 0			月	日	ź	}		
		② バイタルサインや医療職の指示、既往歴などに基づいて、利用者の状態に応じた清拭方法が選択できたか。		0 (0	0 0		期中から期末に1回現認						
		③ スクリーンやバスタオル等を使い、プライバシーや保温に配慮したか。		0 (0	0 0		3						
		④ 末梢から中枢の順番で洗うなど、適切な手順でできたか。		0 (0	0 0	$\sqcup L$							